

場合も、家族の理解や協力を得ることは、なかなか困難なことが多い。まだ日本の家庭では、直接我が家の利益につながらないことで主婦が活動することは歓迎されない。これはサラリーマン家庭に限らず商家や農家の主婦に就ても言えることだと思ふ。いきおい主婦自身も消極的になるし、社会活動には真剣さが足りない。片手間であり無責任になりやす

い。PTA活動はその中で最も家族の理解をとりつけ易い。子供のためという切札があるからだ、それだけに我が子の為という域から出ないものになる。特に三世代同居(姑、しゅうと同居)の場合はこの傾向が強い。むしろ趣味的な行動の方が受け入れられ易い。主婦のグループ活動は一つの社会参加のはじまりであるが、やはり社会への発言、他との連帯

には発展しない。趣味が実益を兼ねたり職業化するケースはあるが、主婦の社会参加がこうした個人の余暇活動に終るなら、次の世代への発展もなく、個人の様々な能力も家庭の中で埋没してしまふ。社会性を持った活動に主婦の余暇や能力を動員することが地域婦人団体の今後の課題であると思ふ。

最後に婦人問題が人間全般の社会問題と大きな関連を持つものだけに、婦人に対する不当な差別を改善するにとどまらず、実社会の圏外にある主婦層の能力の開発と発言や行動が有効に作用するよう社会態勢を生みだすことに、主婦自身も努力すると同時に、行政も地域社会も意を用いて欲しいと思ふ。

〈生活活動連絡協議会会長〉

④ 学童保育とともにも

青木 節 佐藤和子

一——学童保育とは

朝、母親に見送られ、元氣よく各家庭を出て校門をくぐった学童は、放課後再び各家庭に帰り母親にむかえられることになっている。

これらが普通一般的な小学校児童のいる家庭のありかたである。しかし、現在小さな学童が戸締りをし、首に鍵をさげ

登校し、放課後再び家人のいない家に残り、鍵をあけて入る児童が増えている。

家人が留守のため、非常に不安定な状態におかれている児童「カギっ子」は決して少なくない。このことは、最近広い分野での婦人の活躍がみられ、婦人の社会参加がいちじるしく増大し、それに伴って一層顕著になっている。勤労婦人はこ

家庭児童も増えていることはいうまでもない。

横浜市が留守家庭児童問題に取り組むことになった発端は、昭和三十六年十二月に西区で起った児童殺害事件であり、その被害者、加害者いづれも留守家庭児童であったということからである。そこで、まず教育委員会が昭和三十八年留守家庭児童保護育成実験校を市内の小学校

- 一——学童保育とは
- 二——保土ヶ谷小学校ホームクラブ
- 三——学童保育の実際
- 四——最後に

一〇校に指定し、つづいて翌年昭和三十九年民生局が「青少年の家」に一〇ヶ所保護事業を起した。このように、教育委員会と民生局との二本立てで学童保育が開設されていたが、昭和四十四年度から民生局に統合され、地域の運営委員会へ委託事業とされた。昭和四十八年五月に市民局に移管され、現在に至っている。年を重ねるごとに、学童保育事業の施設

は増し、五十六年度には、六九ヶ所（内
学校方式六ヶ所）となつてゐる。

市民局に移管されたことによつて、今
迄教育委員会の実験校と指定され開設し
ていた学童保育（学校方式）は、市民局
の管理課にある事業が学校内にあるとい
うこと自体が不合理ということになつ
て、いくつかの学童保育施設が姿を消さ
ざるを得なくなつた。

市民局へ移管されたということは、そ
れまでの特別な学童保育に対する保護主
義から、地域社会における青少年育成方
針への発展を広く市民に理解されるよう
努力しなければならぬはずだったが、
従前どおりの学童保育事業だった。した
がつて、一般家庭の親達とのくいちがい
も大きく、留守家庭児童だけが特別扱
いされているという面から偏見がかなり見
受けられた。

婦人の社会参加が年々活発化してく
ることにより、学童の保育事業に対する要
望は高く、特に低学年の学童に対する特
別な保護を望むことは多く、共働きの家
庭からは強く出てくるようになった。幼
児期には保育所を利用し家をあけること
が出来たが、小学校入学と同時に子供を
預ける所が無くなるので困るという、親
の立場から働く権利の一環として学童保
育事業を要望する声である。これは婦人
の社会参加が増加する中で当然考えられ

ることである。現在の学童保育事業が充
実されているとはいえないまでも、留守
家庭児童の父母にとつては大きな役割を
果していたのではないだろうか。

学校の授業終了後家人が帰宅するま
で、鍵をさげながら、一日に二、三カ所
の塾通いをし、時間を埋めている子供も
数多い。このような状態は留守家庭児童
ばかりではなく、一般家庭にも見受けら
れ、公園や近所の空地で級友や上級下級
の友達と一語になつて遊ぶ機会もほとん
どなく、遊びの中で上級生達から教えら
れ学ぶ事柄もなく、集団となつて行動す
ることも少なくなつてゐる。

横浜市の学童保育事業は単に「カギッ
子」対策や、働く母親、父子家庭、母子
家庭のためということだけでなく、留守家庭
児童をとりまく児童と大人の結びつき、
集団生活における子供の心身の発達、創
造性等を養うための物であり「青少年健
全育成」を目的とし、地域、学校、家庭
が一体となり、それに行政が協力する形
で、地域ぐるみによる環境づくりを基本
に進められている。地域社会の理解と協
力を前提とした地域の代表者、自治会、
青少年育成者、学童保育を必要とする父
母、PTA、学校による地域ぐるみの運
営委員会を結成し要件が調つた段階で委
託される（委託の要件を参考にのせてお
く）。

〈委託の要件〉

一、地域ぐるみの運営委員が、設置され
ること。

二、対象児童が小学校一年～三年生まで
で、二〇人以上四〇人程度いること。

三、保育に適した場所が確保されている
こと。

四、児童の育成に、知識と経験を有し、
かつボランティア的熱意を有する指導
員が二人採用されていること。

〈運営委員会の構成〉

○地域の団体：町内会、自治会、学校、
PTA、子供会等の代表者

○青少年育成者：青少年指導員、民生委
員、児童委員、保護司等

○父母：学童保育を必要とする父母

〈保育に適した場所〉
地域等で認められた場所で、児童一
人につき、おおむね畳一枚分以上とす
る。

〈指導員〉

学童保育事業の趣旨を理解し、実施
要綱に定める資質を備えていると同時
に、学童保育児童指導要項に基づく指
導が、期待出来ること。心身共に健全

なもの、児童の育成に知識と経験を有
し、ボランティア的熱意を有するもの

○身分保障：社会保険に加入することが
出来る。一年契約、慰労金（三年未満は
無、三年：三万円、一年増すこと）に一

円、一〇年：十万円、一〇年以上打切）

〈学童保育の種類〉

○青少年方式：地域の青少年の家、町内
会館、地区センター、児童館、個人の
家等で開設されている。

原則として、毎週月曜日～土曜日迄と
する。ただし、祝日、および十二月二
十九日から翌年一月四日までを除く。

○学校方式：市内の小學校空教室、空施
設を利用し、原則としては、月曜日か
ら金曜日までとする。ただし、学校休
校日は、休業し、長期学校休業中は家
庭訪問指導を行う。

〈保育時間〉

○青少年方式：学校の放課後から午後六
時までとする。夏・冬・春休みは、午
前九時から六時迄とする。

○学校方式：放課後から午後五時迄とす
る。

〈委託料〉

○青少年方式：年間三三万五八二八円
内運営費 二〇万円
社会保険 指導員手当含む

○学校方式：年間 二〇八万九三六一円
内運営費 一八万
社会保険 指導員手当含む

二 保土ヶ谷小学校 ホームクラブ

○身分保障：社会保険に加入することが
出来る。一年契約、慰労金（三年未満は
無、三年：三万円、一年増すこと）に一

① 発足

保土ヶ谷小学校の学童保育は教育委員会指定校として、昭和三十八年に開設され、学校の協力を得て、一教室を専用で使用している。保土ヶ谷小学校の学区は、昔の宿場町で歴史の古い町である。最近いわれている過疎化問題も少なく、昔から住んでいる人が多く、落ちついた町並である。したがって、新興住宅のよる人の出入りは少なく、近所との交流も大切にされている。祖父母、父母、子供と受けつがれ、児童達の性格は明るく真面目な思いやりのある子供が多い。

② 保育指導及内容

学童保育児童の指導は、学校の延長としてではなく、あくまで家庭的雰囲気の中で、保育出来るように、教室内の設備にも気を配り、畳、絨緞等を敷いて、児童達が各家庭に帰った時と同じ状態に近づくよう心がけている。

放課後における児童は、学校教育からの解放感で活動的になり、その生活の大部分は遊びの中で過しながら、そこにも大きい関心と興味を求めている。

授業終了後、ホームクラブの児童達は、元氣よく同じ仲間と一語になって帰って来る。教室の戸を開けると同時に「たがいま」「おかせりなさい。宿題は」の会話から始まる。次から次へと集って

来る。子供たちは学校での出来事を一生懸命話し、宿題にとりかかる。遊びの指導の内容としては、遊具による遊び、ゲーム、読書、絵画、集団遊び、製作、スポーツ的遊び等があり、この中から児童が選んで行い、特に児童が自主的に参加するよう指導している。そして異年齢集団の遊びの中から、学び、教えられ、思いやりのある気持が育ち、兄弟愛が生まれる。

学習指導については、学校における学習効果といったことを考えるのではなく、学習の習慣をつけることが目的であり、自発的に行われるよう指導している。学習内容は宿題を整理する程度にしてはいるが、理解の出来ない場合は、一対一の状態で、わかるまでしっかり教える。

生活の指導は、児童が日常生活の中で、将来健全な社会生活を営む上に必要な、一般的の習慣を身につけるよう指導し、規律を守り、保健衛生、道徳的心情を育てよう努力している。特に、交通事故、誘拐い等の危険防止及び、非行化防止については、毎日の行動の中にも取り入れ、終りの会には特に注意し児童の心身の安全に、万全を期している。

指導計画、年度末に新年度の計画を立てる、年間プログラム、行事予定を作成し、運営委員会と保護者会(学童保育児童の父母)にかけ決定する。一学期ごと

に保護者会を開き、その都度保護者との意見交換をし、プログラムを検討し、再編成する。また児童の家庭での様子をふまえて指導計画を練る。

主な行事の中には、保護者と指導員との親睦を計り、日頃欠けている親子の愛情と絆、家族の触れ合いや、信頼を深めるために、親子一泊研修が行われている。中には一家族全員で参加し、楽しい一時を過ごす。

日課表やプログラムにとらわれず、あくまで家庭に帰った状態のように、自由にゆとりを持って保育にあたり、毎日学童保育に喜んで来られるよう心がけている。

③ 運営委員会

保土ヶ谷小学校PTA役員、学校長、副校長で構成されている。

学童保育の募集、就学児童については、学校の協力を得て、就学児童父母説明会にプリントを配布し、説明する。募集期間二月末～三月十日頃迄、この期間ホームクラブを開放し、入会希望者に見学してもらい三月十五日決定する。四月五日入学式終了後、親子共説明会を行う。

学童保育は、学校との連携を大切にしなければならぬ。特に学校方式は、いりうまでもないことだが、教育委員会をはじめ、学校、PTAの協力と理解を得る

事が大切である。

私達の学童保育も校長先生、副校長先生、全職員の方々のご協力と、ご理解のおかげで開設以来一八八年間にわたり、一教室を専用で借用している。教室ばかりでなく保育に必要な備品他種々を借用している。空教室がないため、就学児童の増減には一番悩まされ、九〇人以下(二組)だと、ほっとする。

④ 学校方式 学童保育のよい点、悪い点

⑦ 良い点
学校内での保育には良い点がたくさんある。広い運動場での遊びが出来る。級友を交えて共通の遊びが出来るため、級友から仲間はづれにされることはない。指導員二名だけでなく先生方の御協力があるので、管理面に人手がかけられ、また建物が鉄筋なので天災や事故、緊急事態の発生でも安心出来る。授業終了後ホームクラブの教室へ来る間、交通事故の心配がない。児童の行動について、担任の先生と個人別に話し合いが出来、変化があった時は、お互いに指導の連絡を取り合える。授業参観日には、保護者がホームクラブに立寄って行くようにしている。なので、保護者に児童の様子を伝える事が出来る。学校内での遊びなので、危険性が少ない。

表一 2 保育計画書

保土ヶ谷小ホームクラブ

月	保育内容
4	新入生歓迎会(自己紹介 4月中1年生10時より保育 歌、クイズ、ゲーム他 指導員 9:30分出勤)
5	母の日作文、子供の日祝ゲームなどする 柏餅 ケーキ等出す
6	針金を使ってブローチ等作る(7月のレクリエーション) 下見打合
7	七夕まつり 七夕作り 7月中短縮授業の為11時出勤 大掃除 夏休み 週三回 保育
8	夏休み 週三回 保育 レクリエーション一泊親子
9	夏休みの反省(特に行儀に注意)夏休みの作文
10	スポーツ 球技、バドミントン 読書 なわとび
11	さつま芋掘り 今井町方面
12	たこ作り クリスマス会 ケーキを出す (12月10日~25日迄授業短縮) のためおべんとう持ち
1	たこあげ 羽根つき かるた大会
2	ストローを使って飾り物作り ビー玉かざり作り
3	ひなまつり お別れ会 ゲーム クイズ 歌 他
	保育者会 5月 9月 2月

表一 4 夏休みの日課表

時間	内容
9時	出勤
9:00~11:30	夏休み帳 宿題 ドリル (連絡帳の点検)
9:00~11:30	勉強終了次第 自由 遊び
11:30~12:10	昼食 (昼食仕度を含む)
12:10~ 1:10	お昼寝
1:10~ 2:30	自由遊び (遊びの中で話し合い)
2:30~ 3:00	おやつ (おやつ当番が仕度をする)
3:00~ 3:10	掃除 (教室廊下 下駄箱)
3:10~ 3:30	反省会 (児童主体)
3:30~ 4:00	終りの会 (連絡帳、日誌記載 指導員からの注意事項)
	午前 10時~12時} 町内プールのある児童は参加する 午後 12時~3時}
◎	指導員は児童が帰宅時間後退校(4時30分)

表一 1 学校児童数とホームクラブ児童数

年	学校の児童数	ホームクラブ児童数		合計
		1年~3年	4年以上	
昭48	500人	16	8	24
49	476	15	12	27
50	451	15	10	25
51	446	13	9	22
52	460	15	7	22
53	440	23	8	31
54	433	26	5	31
55	425	28	9	37
56	395	24	7	31

- 保育日 月曜日~金曜日
- 保育時間 11時20分~5時30分
4月のみ 10時~5時30分
(一年生の下校が早いため)
- 夏休み保育 週 3回
保育時間 9時~4時30分
- 費用 3,000円、おやつ代、保護者会会費を含む
- 主な行事 野外活動 夏休一泊旅行(親子共に)
11月頃 さつまいも掘り(親子共に)

表一 3 日課表

時間	内容
11時 20分	出勤
11:20~12:30	給食 打合せ(学校との連絡)
12:30~ 1:00	教室 準備 (印刷)
1:00~ 2:00	宿題を見る(連絡帳の点検)
2:00~ 2:45	自由遊び(遊びの中で話し合い)
2:45~ 3:20	おやつ(おやつ当番が仕度をする)
3:20~ 4:00	おやつ当番の後片付 自由遊び (連絡帳、日誌記載)
4:00~ 4:15	掃除 (教室廊下、下駄箱)
4:15~ 4:40	反省会 (児童主体)
4:40~ 5:00	終りの会 (指導員から注意事項)

◎指導員は児童が帰宅時間後退校(5時30分)

④悪い点
学校内のため在籍児童に限られる。学校の延長の気分になり安い、安易に忘れ物が取りに行けるので、忘れ物が多い。遊び場が沢山あるので、目にとどかない所で遊ばないよう約束ごとがある。学校内なので、親の関心度が少なく、あたりまえという気持ちの人が多し。

三 学童保育の実際
子供達にとって、学童保育は、なんだろう。朝、家を出て、夕方暗くなる迄、

家庭に戻ることなく、昼間のほとんどは学校や学童保育で過す事になるが、子供達一人として学童保育をいやがる子供はいない。下級生は上級生の帰って来るのを待ちわび、遅い時には「先生、〇〇ちゃんどうしたの、遅いね、お休みかな」

「〇〇ちゃん、今日、学校で休み時間に会ったよ、だからもうすぐ来るよね、先生」と、とても心配する。一、二年生の子供は、よく私達の膝の上に坐ったり、寄りかかったりして、家の様子や学校のお友達の話をする。そしていつと来たつと、ほっとした顔をして、友達と遊ぶ。「先生、ホームクラブは、家と同じなんだよね」とよくいう。学校の授業が終って、母親や姉妹のいる家に帰って来たよらかな感じになるのだろうか、学童保育の子供達にとっては、心のより所ではないだろうか。

①—A君のこと

ある時、母子家庭の子供の母親から、うちの子供は保育園の時から、今迄あまり外での様子も話さない、弟の方はよく話すのですが、お兄ちゃんはほとんど口もきかない、と相談に見えた。早速、担任の先生にも様子を聞いて見た。やはり、学校でも暗い方の性格で、友達も余りいない様子との事だった。入学当初は、一年生は給食がないため、ホームの

教室で、私達と一緒に昼食をとる。順番に自己紹介をさせ、一日目から交代で昼食の号令をかけさせる(例年の通り)。

たまたま、A君の番になり、号令をかけた時、幼児語だったのでみんなが笑った。まねをする子供もいた、A君は、口をつぐんでしまった。でも、また号令をする日が来た。幼児語で号令する。そしてまた、友達も笑った。日が立つにつれて、幼児語で堂々と号令するようになった。二、三歳になっても、言葉が出なく、遅い方だったと母親は言う。私達はA君に、なるべく話しかけるようにし、たまには幼児語のまねをして話しをした。遊びも一人遊びを好んでする様子だった。ホームクラブでゴム飛びが流行した。A君も一生懸命練習し、少しづつ出来るようになった。汗をかき、息をはずませながら、頑張っていた。一つの飛び方が出来る度、「先生、出来たよ」とにこにしながら喜んでいた。私達も応援し、はげまし、やっと全部出来る様になった。そして、友達と混ざって遊ぶ様になり、会話もするようになった。母親から、家に帰って来ると弟に教えているんですよ。私にも、今日は何が出来るようになったとか、だれだれと一緒にゴムとびをしたとか、話すようになり、明るくなった。と喜びの電話があった。担任の先生からも明るくなってきたと言われ、私達

もほっとした。現在、三年生となったが、相変わらず幼児語が残っているが、ホームクラブでも、学校でも、活発過ぎる程に成長した。二年生位の頃から昆虫や鳥に興味を持ち、図鑑を持ってきては、私達に説明をする。熱心に口に唾をためながら幼児語を混ぜて話してくれる。私達も一生懸命聞いて上げている。〇〇君を見て、忙しさにまかせて、怒るばかりで、聞いて上げる姿勢や、一緒になって行動する事なかった親に多少の原因があったのではないかと思った。

②—Bちゃんの例

ある共働きの家庭では、姉が小学校入学と同時に学童保育に入会するため、家族ぐるみ学校区に転居して来た(毎年学校区に転居する家庭が多くなっている)。そして現在では、姉妹で学童保育に来ている。妹のBちゃんは、授業中時々保健室で寝ている姿を見かけるようになった。担任の先生の話によると、最近、腹痛、頭痛を起したり、手足や目迄痛くなるといふ。保健の先生や医者に診察してもらうが、別に異常はないとの事である。ホームクラブでの過し方等見ていると変った様子もなく、明るく元気にして、お友達と仲良く遊び、私達にもよく話しかけて来ていた。おやつ時間に尋ねて見ると「先生、この頃夜眠れないの、背

中が痛くなって、目が覚めてしまうの」といふ。「お母さんに話したの」「うん、話したけれど何もしてくれないの」といって淋しそうな顔をしていた。「今晚から枕を少し高くし、眠る前に枕にお願いなさい。枕を撫でながら、枕さん枕さん、朝迄ゆっくり寝かせて下さい。と言ってからふとんに入ってごらん下さい。きっとよく寝られるようになるわよ。先生も小さい時、よくそうしたのよ」「本当、やってみよう」と言っている。母親に学校での様子を話すと、経質なので家でも時々そうなる、平然としていた。あまりにも無関心なのにはびっくりした。翌日、ホームクラブに入ると、早速「先生、昨日いわれた通りにやったら、本当に眠れたよ」と喜んでくれた。日頃姉妹の間に入り、母親と姉は弟の方ばかりに目を向け、妹の方にはあまり気を配らなかつたようだった。

③—子どもへのしわ寄せを防ぐために

最近の若い親達は、子供の日常生活に無関心すぎるという。叱ることや、誉めることをしない。危険な遊びをしている子供を見ても自分の子供でなければ知らん顔をする。自分中心の親達が多くなっているのではないだろうか。ホームクラブでの生活状態を一人一人見きわめ、保

護者と相談しあって子供の成長に最善をつくしているが、自分の子供を庇う、そしていい訳をする。家庭で出来る日常必要とする躰を、学校やホームクラブへ依頼し、望んでいる家庭も多い。

勤労婦人が増えている中で、子育ての時期にぶつかるとは当然だが、○歳児から保育園に預け、就学時には学童保育に預ける家庭が多く、忙がしきにかまけ、子育てに一番大切な肌から伝わる愛情をばぶいてしまっているのではないだろうか。学童保育事業当初は、生活に困窮し、やむなく共働きする家庭が多く、おやつ代も納入出来ない家庭も何人かいたが、素直な規律を守る子供が多く、親の躰もきちんとしていたように思える。現在父子家庭、母子家庭が増え、また、幼児を預け仕事に情熱を向け、共働きする家庭も増えている。

現在の社会状況では仕方がないが、子供の教育費、マイホームのために働く

婦人が当然のようになっているが、そのしわ寄せが子供にいつてはならないと思う。

母親の愛情にまさるものはないが、指導員が母親の愛情の万分の一でも近づくと事が出来たら、と常に考えている。

四——最後に

留守家庭にはもちろんの事だが、一般市民にも学童保育の重要性をPRし、鍵を下げて遊んでいる子供を一人でも多く、学童保育に入会出来るよう行政側と児童の健全育成に理解のある地域の代表者、指導員とで協力し、手を差し延べたい。学童保育事業を望んでいる、地域、父母には行政側が窓口となり、指導し、一カ所でも多く正当な学童保育が開設されるよう、努力して行かなければならぬと思う。

学童保育指導員も現在一五〇人前後勤

務している。児童の健全育成を主体として、両親が安心して働くことが出来るよう心がけ、ボランティア的熱意を持って、開設当初は身分保障もなく、低い手当、その上一年契約のため、指導員が定着しなかった。したがって、指導員の交流もなく、研修会の度、顔ぶれが変

っているありさまだ。このことは行政側ばかりに責任があるとは思われないが、安易に指導員を引き受けた人もあったようだった。行政、指導員もアルバイトと思っていた時期もあったが、私達指導員が一人でも多く自覚し、定着するため、親睦を計り、指導員としての教養を高め、みずから学ぶ姿勢の場を作り、保育での悩みごとや、よりよい保育が実施されるよう意見交換をしている。指導員の向上に伴って、アルバイト意識はなくなり、職業として定着する指導員も多くなっている。行政指導の研修会も多数出席し、また、行政で組まれた講習

会等にも参加し、保育指導に役立てている。学童保育に取り組む私達指導員の熱意に對して一日も早く専門職として、行政側は目を向けてもらいたいと思う。

学童保育事業開設以来、一八年間指導員として活躍されている者もあり、一〇年以上の者も大部いるようになって来ている。地域の団体、学童保育児童の父母に誤解されるような活動をしている指導員も中にはいるがやはり児童を預けている以上保育に専念し、子供を第一と考えなければいけない。指導員は、留守家庭児童の健全育成のため、ボランティア精神を失わずに、学童保育指導にはこりを持って歩みたい。そして学童保育事業の前進に少しでも後退するような行動はさげたいと思う。

〈保土ヶ谷小学校ホームクラブ指導員〉